



青木の風

生きる 創る そして輝く

学校だより 6月号

令和8年5月29日

横浜市立青木小学校

子ども主役の活動が進行中

校長 杉山 嘉子

5月は様々な取組が行われ、地域・保護者の皆様が、日頃から子どもたちの学びを見守り、支えてくださっていることに改めて感謝の念を感じる一か月となりました。

先週の土曜日は、授業参観と「青木のまちの風総会」を実施することができました。まちの風総会は2000年にスタートし、「まち」とともにある青木小ならではの取組の一つです。今年度も、自治会長・町内会長様をはじめとした地域、保護者の方々にもご参加いただき、4・5・6年生が津波・地震をテーマとして防災について考えました。地域、保護者の皆様には、子どもたちの伴走者として、子どもたちの学びに寄り添い、支えていただいていることを改めて実感しました。授業参観では、多くの方々にご来校をいただいたので、廊下からの参観となってしまった方もおられるなど、ご不便をおかけしたこともあったかと思います。それでも、子どもたちの学びを最優先に考え、ご協力をいただいていることにも、改めて感謝を申し上げます。

5月7日は、たてわりリーダーを中心とした、6年生児童の企画運営による「全校遠足」でした。

新たに仲間となった1年生を温かく迎え、みんなで楽しめる時間にしたい、みんなが仲良くなる遠足にしたいといった願いをもち、たてわりリーダーを中心に、協力して取り組んだ活動でした。低学年に気を配りながら、高学年自ら班で決めた遊びを楽しみ、班の仲間をつなげている姿は、ほほえましくもあり、大変頼もしくもありました。これまで青木小で大切にしてきた、たてわりの学年での交流活動は、最上級生にとって学校生活の中で自分の役割を実現する貴重な機会であり、よりよい自分、よりよい生活に向かう姿勢を育成する「学びの場」です。

遠足当日は、70名近くの保護者ボランティアさん・おやじの会の方々、地域学校コーディネーターさんが、往復の道路や臨港パークでの安全確認など、子どもたちが主役の活動が実現できるようサポートをいただきました。様々な場面で、地域・保護者の皆様が、こうした自己有用感を自身で培うための機会を支えていただいていることも、子どもたちの育ちにつながっています。

最後に、子どもたち自身が「学校をつくる」取組を紹介します。今年度の児童会テーマは、「声」。学校進行委員会の子どもたちが中心となり、テーマを決めました。委員会・クラブ、プロジェクト、学校行事など一年間の活動を通して、全校での実現を目指します。子どもたちが自発的に、互いの声(思い)を大切にしたい取組をしようとするところが素敵です。どのような「声」を大切にして、学校づくりをするのか、一つ一つの取組を通してどんな「声」が見えてくるのか、心から楽しみにしています。

子どもたちが主役の学校づくり、現在進行中です。今月もどうぞよろしくお願いいたします。